

## 【受験本番】

いよいよ明後日、10日(木)に迫った私学入試。3年生にとって勝負の時を迎えました。でも安心して下さい。3年間大成中学校の授業を真面目に聴き、真剣に勉強してきた人にとって、入試問題は一部の私学を除いては、それほど難しくありません。どの問題も「あれ?どこかで見たような問題だ。」と思うはず。理由は、中学校で勉強する内容は、日本全国みな同じだからです。大成中の先生方も、皆さんにもれなく教えています。だから、恐れず堂々と自信を持って入試に臨んで下さい。大丈夫です。

ただし、入学試験は、文字通り入学者を決める試験ですが、言い換えると、“定員を超えた受験生を落とすための試験”でもあるのです。油断はできません。服装から髪型、言葉遣いまで、しつこく注意するのは、『学校の決まりも守れない生徒』と判断され、不利な扱いを受けないようにするためでもあるのです。年々厳しさを増す就職試験を受ける大学生に、茶髪は一人もいません。そして、みんな白いシャツに黒系のスーツを着ています。これは、実力以外の部分で減点されたくないと思うからです。“相手がどう思うか”がまず重要なのです。今は、黒い髪に黒系のスーツが就職試験における“常識(当たり前のこと)”になっているのです。中学生が中学校の決まりを守ることも“当たり前のこと”なのです。

さあ、入試前日・当日の注意事項や心得(学年通信に書いてあります)をしっかりと守り、十分に力を出し切って下さい。“恐れず、油断せず、諦めず”に頑張ってください。“**当たり前のことを当たり前にする**”ことが大切。皆さんの健闘を祈ります。



## 【生徒会スローガン決まる】

今年の生徒会のスローガンが決まりました。『わごころ』・『わ』の心を持つ・・と言うスローガンです。次のような説明がありました。

- 『わ』 = 『輪』: 仲間を大切に、クラス・学年・学校全体で輪を作る心
- 『わ』 = 『和』: やわらかい気持ちを持ち、和み、落ち着ける学校を作る心
- 『わ』 = 『羽』: 夢や目標に向かって努力し、羽ばたこうとする心

一昨年の『大成革新』昨年の『Proud Of 大成』と較べると、“新しい大成中学校を築こう”という強い意志表示から、“支え合い、共に伸びよう”という“居心地の良い大成中学校”をめざす方向へシフトしていると思えました。さて、『わごころ』を掲げた生徒会が、これからどのような活動を展開するのが楽しみです。

ところで、先月のアルミ缶回収で、2年2組は、**クラス全員がアルミ缶を持って来た**そうです。アルミ缶回収に限らず、一部の生徒の参加で支えられている生徒会活動ではなく、全生徒が参加する活動へ発展させることも、新しさはないかもしれないが、とても意味のあることではないでしょうか。



## 【表彰】

1640年尼崎で生まれ、江戸時代の日本を代表する国文学者である契沖を顕彰する、第8回契沖顕彰短歌大会(9,872名の参加)で、見事入賞しましたので紹介します。

尼崎文化協会会長賞 石津遥さん



『朝おきてふと思うのは君のこと  
今君はだれを想っているの』

契沖賞 松吉佑李奈さん

『暑い夏練習ばかり屋外で  
水着の形で日焼けしている』



契沖賞 上野ちはるさん

『あつい部屋ベッドの上でメール待ち  
やっぱり今日もこなかったな』

契沖賞 谷上喜美さん

『大好きな君の笑顔を見たとき  
私の顔は真っ赤なリンゴ』



短歌ってすごいね。こんなに短い文章で、思いや情景が十分すぎるぐらいに伝わって来ます。皆さんの豊かな感性をうらやましく思う。

## 【ちょっといい話】(卒業生の方からメールをいただきました)

1月31日(月)の夜、この日は最高気温が5℃にしかならず、この冬で最も寒い日でした。帰宅を急ぐ私は、両手に荷物を持って、自宅のあるマンションのエレベーターに乗ろうとしていました。先に待っている男子中学生が一人おり、彼が先にエレベーターに乗ったのですが、私が乗ると同時に「何階ですか?」と聞いてくれ、「6階をお願いします」と言うと、ボタンを押してくれました。彼は3階で降りたのですが、その時さりげなく「失礼します」と言って、軽く会釈をし、エレベーターを降りて行きました。素敵な彼の言動に、「やるじゃないか、大成中学生」と思わず、心の中でエールを送りました。たったそれだけのことだったのですが、寒さが厳しく、両手に荷物を持っていた私はすごく「温かい気持ち」になりました。

(校長先生も「温かい気持ち」になりました。親にとっても「自慢の息子」だね。)

